

水災害への備えに係る現状の課題認識(案)

■ 近年の出水状況を踏まえた主な課題

- 球磨川流域では、氾濫危険水位を超えるような洪水が、近年、発生はしているものの、関東・東北豪雨にみられるような大規模な水害が発生しておらず、災害を「我がこと」と住民の方々が認識する機会が最近は少ないため、水害リスクについての知識や心構えが十分でなく、災害発生時に適切な避難行動をすることができないことが懸念される。
- 特に、球磨川は上・中・下流それぞれの区間で氾濫形態（下流部：「拡散型」、中流部：「流下型」、上流部：「貯留型」）が異なるが、各々の地域の住民の方々が「自分の地域ではどのように水が溢れ、浸水するのか」という水害リスクについて十分に把握されていない可能性がある。
- 上記のような地域特性を踏まえ、地域住民の避難のみならず、観光客の避難にも配慮した取組が求められている。
- また、水防団が出動する機会も少なく、水防活動に関する専門的な知見の習得・維持や、水防資機材の所在の把握、水防活動実施・連絡体制の構築など災害発生時に必要な事前準備が必ずしも十分ではないことが懸念される。
- 市町村においても、避難勧告等の発令に係る意思決定の考え方や、発令のタイミング、関係機関との連携の方法など、近年経験していないような大規模な災害が発生した場合には、適時に適切な判断が困難な可能性がある。

水災害への備えに係る現状の課題認識(案)

■ 球磨川の治水安全度の状況

- 「ダムによらない治水を検討する場」において最大限積み上げた対策を全て実施しても、人吉地点において計画高水位または地盤高以下で流下可能な洪水の流量規模（年超過確率）は1/5～1/10程度で、全国的に見ても治水安全度が低い

「近年の出水状況を踏まえた主な課題」
と
「球磨川の治水安全度の状況」
を踏まえ



**減災の取組の必要性・緊急性が高く
これを住民一人一人が意識する必要**

球磨川 取組目標(案)

■ 5年間で達成すべき目標

住民一人一人が災害のリスクを認識し、観光客を含めた地域の人々の「迅速かつ的確な避難」と「被害最小化」を実現する球磨川流域を目指す。

■ 上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

河川管理者の行う洪水を安全に流下させるハード対策に加え、住民一人一人の的確かつ迅速な避難等を実現し、球磨川流域の人命・財産をできる限り守るため、以下の取り組みを実施する。

- 1. 住民一人一人が迅速かつ的確な避難行動を実施するための、地域毎の氾濫特性に基づく水害リスクの周知による水防災意識の啓発・醸成**
- 2. タイムラインの検討・運用など、防災に携わる関係者が顔を合わせる検討の場の創出・活用による、防災活動の着実な実施・連携体制の構築**
- 3. 洪水氾濫時における人命・社会経済への被害を最小化するための地域と連携した備えと施設・体制の整備**